

記 入 日 2012年1月18日

1. 概 要

実践団体名	東京都立田無工業高等学校		
連絡先	042-464-2225		
プランタイトル	生徒全員で防災ボランティアになろう！		
プランの対象者※1	高校生	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

生徒一人ひとりが、震災その他大規模な自然災害等の発生時に、消防職員や地域の自治会と連携し、災害に立ち向かう「震災に強い東京」をつくる防災パートナーとなる。そのために、生徒全員が、救急器具取扱訓練、初期消火訓練などに積極的に参加することにより、個人個人の防災への意識を高め、災害発生時に自発的に活動できる防災ボランティアの育成と地域自治会との共同訓練をおこない、地域との防災まちづくりネットワークを構築する礎をつくる。

【プランの概要】

- ①防災ボランティア技術講習会に1学年生徒全員が参加し、救急器具取扱訓練、起震車体験、初期消火訓練などの防災ボランティアの基礎訓練と行動を習得する。
- ②近隣住民にも講習会に参加してもらい、防災に対して共助する意識を近隣とともに培う。
- ③災害時の被災状況を把握し、直後の救助体制、共助体制を考えて具体的な防災共助プランを作成できる知識と意識を育成する。
- ④防災ボランティア拠点としての学校づくり、地域づくりを推し進めていくためのまちづくりを積極的におこなうための一つの取組として、文化祭等で防災に対する発表をおこない、学校全体で課題に立ち向かう意識を涵養する。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

たとえば、AED、動力可搬ポンプなどの使用方法に対して、「やったことがある」は、災害時には、大変大きな力となる。生徒全員が「防災ボランティア技術講習会」へ参加することにより、卒業時には全員が「やったことがある」が浸透し、事故や障害などで困っている人を自発的に助けようとする気持ちがおこる効果が期待される。また、一人ひとりがおこなう防災ボランティア活動が、やがて防災まちづくり、防災地域づくりを具体化するネットワークづくりの基礎となる効果もあると考えられる。

2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	消防庁電子学習 立川防災館 初期消火訓練等	資料作成 電子端末の準備 事前学習、ガイダンス	消防庁電子学習室により、事前学習 普通救命講習 防災シアター、地震体験室、煙体験等
5 月			
6 月			
7 月	①防災体験技術講習チラシ作成 ②防災体験技術講習会	打ち合わせ チラシ配布計画	青少年育成会、学校近隣への配布活動 結束訓練、応急救護訓練、水消火器による初期消火訓練、チェーンソー・削岩機などの器具訓練、D級ポンプによる放水訓練、起震車体験
8 月			
9 月	総合防災訓練のための材料集め	近隣商店への挨拶、お願い	近隣商店から廃材の提供、搬出作業
10 月	西東京市、東京都総合防災訓練参加 文化祭による東日本大震災被災状況展示	消防署、市役所等との打ち合わせ 作業服の発注	西東京市・東京都総合防災訓練参加 (都立小金井公園) チェーンソー・削岩機の再訓練 D級ポンプによる放水再訓練等
11 月	文化祭展示内容のアンケート集計	アンケート内容の検討	集計作業と今後の課題集約
12 月			
1 月	防災マップ作成に向けた準備	防災マップ作成特別授業の打ち合わせ	大学の講師との打ち合わせ、授業内容、取組内容の検討と具体化
2 月	防災マップ作成授業	近隣外部調査活動に向けた調査内容の検討	近隣外部調査
3 月	防災マップ作成	グループごとのまとめ	

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	防災体験学習
実施月日（曜日）	平成 23 年 4 月 19 日、20 日
実施場所	立川防災館
担当者または講師	立川防災館職員
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3×50 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災意識を高める。
達成目標	防災ボランティアになるための基礎知識を学ぶ。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	防災ビデオの閲覧 地震体験、煙体験、応急救護訓練、初期消火訓練をグループごとに体験
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	東京都教育委員会著作準教科書「奉仕」
参加人数	1 4 0 名
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	<p>【成果】 防災意識を高めていくための諸段階での訓練としての位置づけが明確になった。3月の震災が近かったために積極的な参加が認められた。</p> <p>【課題】 4月の慌しい中で実施したために、なぜおこなうかという明確な目標を生徒に明示できていなかった点が課題である。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	普通救命講習
実施月日（曜日）	平成 23 年 4 月 19 日、20 日
実施場所	田無工業高等学校会議室、体育館
担当者または講師	西東京消防署 ボランティアの方々
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4×50 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	技術を身につける。
達成目標	普通救命救急訓練に積極的に取り組み、応急手当の重要性を習得する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	西東京消防署およびボランティアの方々による、普通救命講習 ①心肺蘇生法→②自動体外式除細動器（AED）の使い方→③止血法→④異物除去法→⑤応急手当を各クラスのあらかじめ分けられたグループごとに実施。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	東京都教育委員会著作準教科書「奉仕」
参加人数	140名
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	【成果】 参加者全員が真剣な取り組み、積極的な参加が目立った。普通救命講習修了証を全員が取得する第一段階が終了。 【課題】 参加者が多いため、講師として参加されるボランティアの方々や消防署員の負担が大きい。また細かな質問や対応にやや難しさがある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	防災ボランティア技術講習会
実施月日（曜日）	平成23年7月14日（木）
実施場所	東京都立田無工業高等学校 柔道場 会議室 校庭
担当者または講師	西東京消防署 ボランティア
所要時間または 「コマ数×単位時間」	約4時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	技術を身につける。
達成目標	参加生徒全員が、与えられた訓練をしっかりと取り組み、安全かつ迅速に器具等を扱うことができるようになる。
実践方法・進め方 （簡条書き またはフロー）	①応急救護訓練（担架によるけが人等の搬送、止血法）グループごと ②初期消火訓練（水消火器）グループごと ③結束訓練（救助ロープワーク）グループごと ④放水訓練（D級動力消防ポンプ）グループごと、代表者による実技指導 ⑤起震車体験 グループごと ⑥震災資器材扱訓練（チェーンソー・削岩機等）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	近隣の銭湯で使用する予定の3～5m程度の木材 生徒による学校に搬入 実習等で使用したコンクリート廃材
参加人数	140名
経費の総額・内訳概要	無料
成果と課題	【成果】 防災ボランティアとしての意識の向上と積極的な参加が認められた。また、消防署の指示と指導に、真摯に取り組むことができた。 【課題】 具体的な状況を想定した緊迫感が必要。
成果物	普通救命講習修了証

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4】※3

タイトル	西東京市・東京都総合防災訓練参加
実施月日（曜日）	平成23年10月29日（土）
実施場所	東京都立小金井公園
担当者または講師	西東京市役所職員 東京消防庁 東京都職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	5×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	参加生徒全員が、与えられた訓練をしっかり取り組み、安全かつ迅速に器具等を扱うことができるようになる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①避難支援必要者の救出・救出支援 ②初期消火訓練（放水訓練等） ③応急救護訓練（心肺蘇生法、けが人の手当等） ④倒壊等によってでた木材やコンクリート片をチェーンソー・削岩機により切断、削岩してけが人等を救出する訓練
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	近隣の銭湯で使用する予定の3～5m程度の木材 生徒による学校に搬入 実習等で使用したコンクリート廃材
参加人数	30名
経費の総額・内訳概要	52,000円（防災ボランティアブルゾン作成）
成果と課題	【成果】 文化祭で東日本大震災の被災状況を展示することにあわせて、総合防災訓練に参加することにより、生徒は防災ボランティアになる自覚がでてきた。 【課題】 指示系統や参加する際に、ボランティアとして現場でどのように係わるのかを指導していく訓練も必要。
成果物	ブルゾン

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	文化祭による震災被災地の状況報告とこれからのまちづくりを考える
実施月日（曜日）	平成23年10月29日（土）、30日（日）
実施場所	東京都立田無工業高等学校 教室
担当者または講師	クラス担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	12×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	学級活動
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	被災地の問題点や公共建造物の破損状況などを整理して、今後のまちづくりや復興ネットワークづくりを考える。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①被災地の写真展示による状況報告 ②陸前高田市の被災状況と津波到達位置の模型作成 ③公共建造物の破損に至るメカニズムのまとめ
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	スチレンボード 模造紙 パネル
参加人数	35名
経費の総額・内訳概要	文化祭経費
成果と課題	【成果】 グループごとに文化祭で取組む内容を絞ったことにより、班員の防災に取組む意識と具体的な役割が明確になった。 【課題】 被災状況からまちづくり、都市計画に防災、減災対策をどのように盛り込むか。実経験していない生徒が被災後のまちづくりにどのように向き合うか。
成果物	陸前高田市の津波到達模型 発表展示パネル等

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>140名もの生徒に防災に関してどのように知識を蓄積させ、何を教授していくのかがもっとも難しい点であった。しかも、「奉仕」という教科の中で、防災に絡めるとなると、例年取り入れている全員がボランティアとして、災害時に自発的におこなうものということになる。そこで、普通救命救急などの講習会を通じて、全員が被災された方々に対して行うことができる技術を身につけて、社会の一員として活躍できる人材育成をおこなうことを数年前からおこなっている。しかしながら、これをより浸透させ、地域との連携を図ることが求められているのであるが、なかなか人数が多いということもあり、地域との連携が推し量れていない現実もある。</p> <p>今回、中間報告以後は、都市工学科の生徒が中心となり、総合防災訓練への自発的な参加、東日本大震災の被災地状況の報告などを文化祭でとりあげ、3年間を防災、減災内容に特化した取組みに切り替え、進めていくことを考えた。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>総合防災訓練への参加では、西東京市と東京都の担当者、消防署との連携などに、とても時間がかかった。東京都の防災訓練への参加にもなるので、都立高校は東京都教育委員会、西東京市の総合防災は、西東京市の管轄となり、行政側のさまざまな取組、連絡の狭間で右往左往したことは事実である。</p> <p>また、防災訓練への参加にあたり、廃材や廃コンクリートの必要数がなかなか決まらず、確保する数量を把握するのに時間がかかった。</p> <p>廃材は、近隣の銭湯から無償提供頂き、廃コンクリートは、本校の都市工学科の実習で出たものを利用した。</p> <p>文化祭での東日本被災地の状況報告は、都市工学科の担任が現地でボランティア活動をおこない、その合間に集めてきた写真等を全員で閲覧し、被災地の悲惨な状況を改めて感じ取った。この写真が1500枚以上もあり、整理に時間がかかった。また、陸前高田市の津波到達、被災状況模型は、連日遅くまで生徒が残り、自分たちで作ら上げた。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>生徒へのモチベーションの上げ方が、難しい。特に、140名に3つ、4つの分野の防災技術講習をおこなうため、担当教員の配置や周知に時間がかかった。また、この取組には1学年だけがおこなうために、時間割上担当教員の配置が難しいことも感じた。</p> <p>さらに、文化祭当日は多くの来場者の方々から、「被災状況や公共物の破損状況についての解説をしてほしい」との意見がアンケートの多くから読み取れた。今回は、被災状況を単に展示し、全員が防災への関心を高めてもらうためにおこなったために、意図が来場者に伝わらなかった。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	首都大学東京	防災マップ作成特別授業
保護者・ PTAの組織		
地域組織	西東京市あしたば会	チラシ配布
国・地方公共団体・ 公共施設	立川防災館 西東京市 西東京消防署 東京都	防災の啓蒙 総合防災訓練 普通救命訓練
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

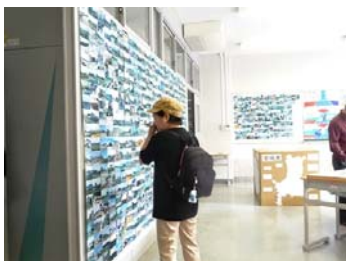
<p>成果として 得たこと</p>	<p>【生徒に関して】</p> <p>①防災に対するの関心を持たせることにつながった。 ②それぞれの訓練等を実施することにより、防災訓練の意義や大切さを感じさせることができた。 ③学校全体で取り組むことにより、人任せにしない積極的な姿勢を育成できた。 ④防災ボランティアとしての意識向上のきっかけになった。</p> <p>【学校や近隣に関して】</p> <p>①消防署や市役所の担当者とのつながりやコミュニケーションができ、緊急時の連絡ラインをつくるきっかけになった。 ②訓練に近隣住民が数名参加することにより、学校の取組みが少し理解して頂けた。 ③毎年の取組みを継続しておこなうことで、職員の連携ができてはじめた。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>【全体的な点】</p> <p>①防災という意識の持たせ方、きっかけづくりに初期啓蒙授業などの時間をもっと割くことが重要である。 ②年度当初に具体的な取組み内容についての打ち合わせ、生徒への周知、保護者への協力などの活動が必要である。 ③地域との連携や職員の配置などの組織づくりのあり方を再考することが必要である。</p> <p>【生徒に対して】</p> <p>①取り組む人数が多いと他人ごとと感じている生徒のモチベーションの上げ方が課題である。 ②グループの分け方や取り組むカテゴリへの明確な目標を各自で事前に作らせることも大切である。 ③グループごとに被災状況を想定させて訓練にのぞむ、自発的な取組みに向けた環境づくりが必要である。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>普通救命講習の受講や防災館への訪問、総合防災訓練の参加は来年度も継続する。また、文化祭で防災や減災を考えたまちづくり、都市計画などは、3年生まで続けて発表、展示をおこなう。さらに、2月には地域防災マップ作成に向けた特別授業を大学の先生を講師に招いて実施。内容を受けて、2年後の学校を中心とした近隣防災マップづくりをおこない、配布できる成果物に仕上げる予定。来年度は、生徒会やクラスの代表、有志を募り、近隣自治会と連携して防災まちづくりにできることを模索させ、一緒に検討し、具現化する。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

総合防災訓練、文化祭の様子

総合防災訓練は、生徒がとても積極的に参加し、当日訪れた猪瀬東京都副知事にも声をかけて頂いた。また、文化祭は、全員がそれぞれの役割を分担し、とても充実した内容となった。



(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

(自由記述: 3/3)